

【平泉町】
校務DX計画

1 現状

当町では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度に町内全ての小・中学校で1人1台端末を導入し、通信ネットワークの構築やクラウドサービスの積極的な活用等、児童生徒一人ひとりに必要な環境を整備してきた。

教職員においてもICTの活用を進めているが、学校現場における校務の円滑化・効率化の観点から、さらなる校務DXを進めていく必要がある。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言（令和5年3月）や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、学校における働き方改革や教育活動の高度化を目指すため、次世代の校務システムの導入も視野に以下の取り組みや検討を行い、校務DXをさらに推進していく。

2 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題等について

当町の小・中学校における「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」の自己点検結果（文部科学省 令和6年11月実施）の結果は、全国平均と比べると大きく下回っている。

特に以下について各学校と連携を図りながら校務DXの推進に取り組む。

(1) FAX・押印等の見直し

対象の3校全てでFAXを利用しているものの、各校でメール等クラウドサービスの活用を進めており、FAXの利用頻度は大幅に減少している。また、押印等については必須の場合を除いて各校で簡略化を進めており、町教育委員会としても引き続き、FAXや押印等について制度・慣例の見直しを進めることで校務DXの推進を図る。

(2) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

現在の当町における教育系ネットワークは、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒が学習活動で利用する「学習系」の2つに分離しており、相互にアクセス等ができない構成としている。今後は、ゼロトラストセキュリティの考え方を踏まえたセキュリティ対策を十分に講じた上で、次世代校務DX環境の利便性を最大限生かすことができるよう、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、国の動向や先進自治体の事例等を参考にしながら、校務系・学習系のネットワーク統合等についても検討を進める。

当町の小・中学校では全ての教職員に個人アカウントが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にある。一方、学校と保護者間における活用に向け、先進事例の紹介及び支援を行う。

(3) 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

令和7年4月に町内全ての小・中学校を対象として、県が共同調達する統合型校務支援システムを導入した。令和7年度末までに、校務支援システムへの名簿情報

の不必要な手入力作業を一掃した学校の割合を100%とすることを目標値として業務の効率化を進め、3校全てで児童生徒の名簿情報について原則データを取り込む形で登録しており、不必要な手入力作業をなくすよう取り組んできたことから、今後もさらなる効率化を図っていく。